アジア文化論 II：東南アジア古典文化論 ver2.3

アンコール王朝
- アンコール：angkor < nagara （都）
- クメール人の王朝の首都、トンレサップ湖の北岸
- 恵まれた自然環境による高い食糧生産力
- デーヴァ・ラージャ（神=王）思想による強力な王権
- メコン河流域を拠点にしたタイ湾をめぐる交通の支配
- 9 世紀初頭から 15 世紀中頃まで。ジャヤヴァルマン 7 世治世に最盛期

《アンコール期以前》

■ 600 年頃-800 年頃　真臘（Chenla）王国
- ヒンドゥー教、とくにシヴァ神信仰、リンガ崇拝。土着の信仰と接合
- 初期王都シュレーシュタプラ（Shrestapura）. 現在のワット・プー寺院遺跡（ラオス、チャンパサック県）。
- サンスクリット、南方ブラーフミー系文字による記録
- メコン川デルタ地域は一時ジャワの勢力下だったと推定される（シャイレーンドラ王朝？）

《アンコール期》

■ 802 年　ジャヤヴァルマン 2 世「世界の王」宣言
- ジャワの支配から独立、クメール王国の再統一
- デーヴァ・ラージャ（devarāja）儀礼
- 王はシヴァ神と同一視され、リンガ（linga）によって象徴される

■ スールヤヴァルマン 2 世（1113-45 年）：アンコール・ワットの建設
- アンコール・ワット：Angkor Wat（王都＋寺院）
- ヒンドゥー教寺院として建立、ヴィシュヌ信仰、一辺 1.3km×1.4km
- 『マハーバーラタ』『ラーマーヤナ』の浮き彫りなど
- その後、16 世紀に仏教寺院に改修、本堂のヴィシュヌ神像が仏像に置換される
- 1632 年、日本人森本右近太夫一房が参拝（祇園精舎と勘違い）

■ ジャヤヴァルマン 7 世（1181-1201 年）：アンコール・トムの建設
- アンコール・トム：Angkor Thom（王都＋大きい）
- ジャヤヴァルマン 7 世は大乗仏教を信奉、自らを観世音菩薩に描く
- 一辺 3km の堀と高さ 8m の城壁に囲まれた方形の敷地
- 中心にバイヨン寺院（トンレサップ湖でのチャンパーとの水上戦を描く）
- 王の死後、仏教からヒンドゥー教へ回帰（仏像の破壊の痕跡）

■ 1296 年　中国元朝の使節の来訪　周達観『真臘風土記』
- 上座仏教とヒンドゥー教（シヴァ神への信仰）が共存
- 14 世紀後半以降、タイ人の王国が攻勢

■ 1432 年　タイ人のアユタヤ朝、アンコールを攻略
- クメールの王都はプノンペンに移動（以後、カンボジアとして知られる）
- アンコールの文物をアユタヤに移送（アプサラ舞踊も）
- 古典的インド文化はアンコールを経由してアユタヤ王朝に受容される。
- 『ラーマーヤナ』はクメールの『ラーマキルティ』を経てタイの『ラーマキエン』に
- バラモン僧による王の即位儀礼

参考文献

石澤良昭『東南アジア　多文明世界の発見』（興亡の世界史 11）講談社．2009.
周達観・著、和田久徳・訳注『真臘風土記　アンコール期のカンボジア』（東洋文庫）平凡社. 1989.

図１（左）　カンボジア

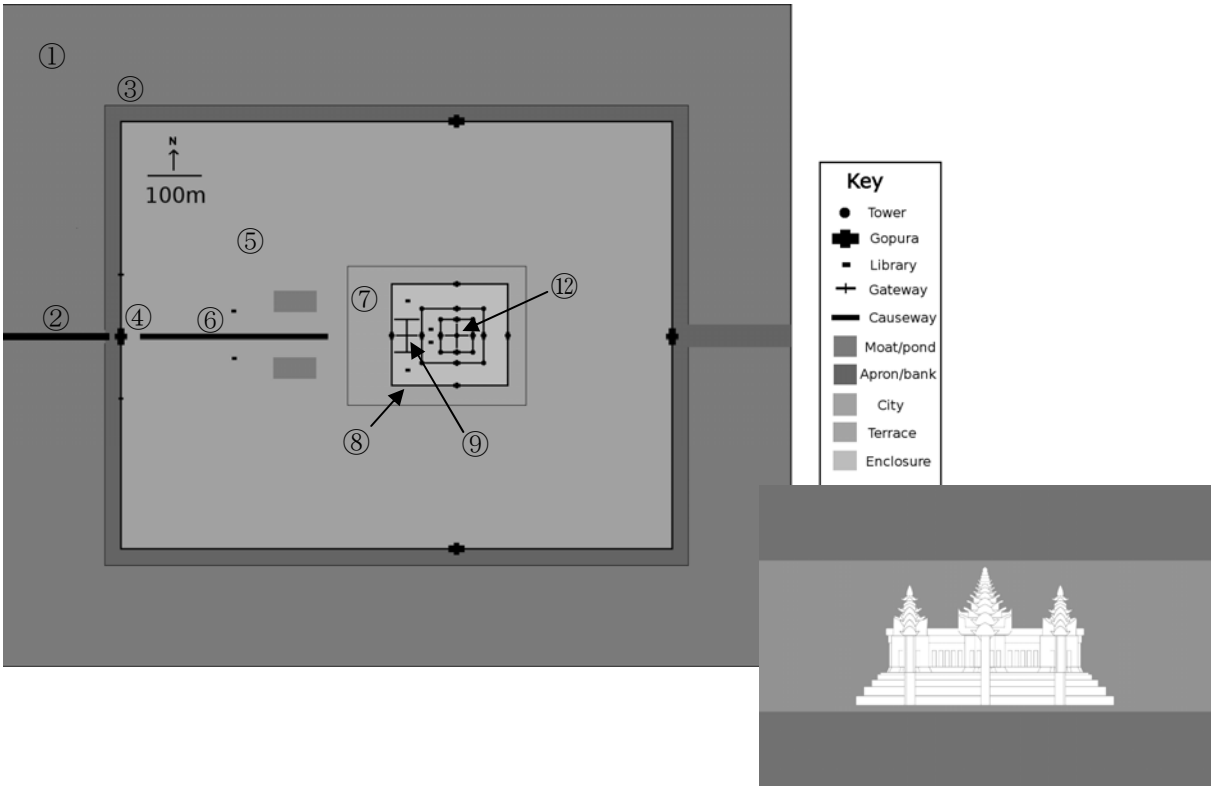
図２（下）　アンコール全体

①　アンコールワット（寺院）

②　アンコールトム（王都）

③　西バライ（人工池）

④　東バライ

アンコール・ワット：angkor < nagara　（都）
12 世紀前半、スールヤヴァルマン 2 世の建立。ヒンドゥー教の寺院。

1. 環濠：東西 1500 メートル、南北 1300 メートル、幅 200 メートル。
2. 参道：西から進入。石橋で環濠を渡る。欄干はかつて「乳海攪拌」の場面を描く。
3. 周壁：東西 1030 メートル、南北 840 メートル。
4. 西大門：南北 230 メートル。三塔形式。中央に王の門、左右に二つの門。南北には階段が無い象門が二つ。
5. 前庭：中心に参道。その南北にそれぞれ経蔵と聖池。
6. 参道：前庭中央を西から東へ直進。ナーガ（大蛇）の欄干をもつ。
7. 内苑：三重の回廊、中央に祠堂
8. 第一回廊：東西 200 メートル、南北 180 メートル。
   - 西面南：マハーバーラタの場面。左から攻めるパーンダヴァ族と右から攻めるカウラヴァ族の軍。
   - 西面北：ラーマーヤナ場面。とくにラーマ王子たちがランカー島で魔王ラーヴァナと戦う場面。王子の顔は建立者スールヤヴァルマン 2 世の似姿。
   - 南面西：「歴史回廊」。行幸するスールヤヴァルマン 2 世とそれに従う王師、大臣、将軍、兵士など。
   - 南面東：「天国と地獄」。上段に天国、中段に閻魔大王らと裁きを待つ人々、下段に地獄を描く。
   - 東面南：「乳海攪拌」。神々と阿修羅らが大蛇ヴァースキを引っ張り合って、マンダラ山を回して海を攪拌。
   - 東面北および北面：後の 16 世紀頃に増補。クリシュナと怪物バーナとの戦い。
9. プリヤポアン（千体仏の回廊）：第一回廊と第二回廊の間を結ぶ十字回廊。南北に経蔵。森本右近太夫一房の墨書。
10. 第二回廊：第一回廊から 17 段の石段を登る。東西 115 メートル、南北 100 メートル。石畳の中庭に第三回廊と祠堂がそびえる。第二回廊の四隅に祠堂（プラサート）。
11. 第三回廊：高さ 13 メートルの急勾配の石段を登る。一辺 60 メートル。四隅と中央に須弥山を模した祠堂。第三回廊に囲まれて田の字型に四つの中庭。
12. 中央祠堂：高さ 65 メートル。かつてヴィシュヌ神を祀る。現在は、四体の仏像。各所にアプサラスまたは女神（デーヴァター）の像。